

# 学位論文審査結果の要旨

所 属	甲 三重大学大学院医学系研究科 生命医科学専攻 臨床医学系講座 循環器・腎臓内科学分野	氏 名	はこぎき (みずたに) はな 箱崎 (水谷) 花菜
審 査 委 員	主 査 高尾 仁二 副 査 佐久間 肇 副 査 後藤 英仁		
<p>(学位論文審査結果の要旨)</p> <p>Prognostic Impact of Peak Aortic Jet Velocity on Patients With Acute Myocardial Infarction</p> <p>【主論文審査結果の要旨】</p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>【背景】大動脈弁狭窄症 (AS) の存在は心血管系死亡と関連しており、一般集団では軽症から中等症の AS であっても予後不良であると報告されている。今回、我々は急性心筋梗塞 (AMI) 患者を対象に、心エコー図検査を用いて、<math>2.0 \text{ m/s} \leq</math> 最大大動脈弁血流速度 (<math>V_{\max}</math>) <math>\leq 3.9 \text{ m/s}</math> で定義された軽症から中等症の AS 合併が予後に及ぼす影響を調査した。</p> <p>【方法】県内 15 施設での多施設共同登録研究である三重 ACS レジストリーから得られたデータを用いて、3,049 人の AMI 患者を、<math>V_{\max}</math> に従って、グループ 1: <math>V_{\max} &lt; 2.0 \text{ m/s}</math> および・または視覚的に開放制限のない大動脈弁、およびグループ 2: <math>2.0 \text{ m/s} \leq V_{\max} \leq 3.9 \text{ m/s}</math> の 2 群に分類した。</p> <p>【結果】グループ 1 は 2,976 人、グループ 2 は 73 人で、グループ 2 ではグループ 1 に比べ高齢で、男性の割合が高く、Body Mass Index が低く、Killip 分類 <math>\geq 2</math> の割合が高かった。血管造影データ、病院到着から再灌流に要した時間、機械的補助の割合には 2 群間で有意差は認められなかった。グループ 2 では、全死因死亡率 (<math>P &lt; 0.01</math>) および心血管死と心不全入院の複合 (<math>P &lt; 0.01</math>) が有意に高く、カプランマイヤー分析では、傾向スコアマッチング後でも同様の傾向が示された。</p> <p>【結論】<math>V_{\max}</math> に基づく軽症または中等症の AS は AMI 後の予後不良と関連していた。</p>			

本論文は、最大大動脈弁血流速度によって定義された軽症～中等症の大動脈弁狭窄症は急性心筋梗塞の予後不良に関連することを示唆した論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値あるものと認めた。

Circulation Journal 2022; 86: 1539–1546

Published: Jul 16, 2022

doi:10.1253/circj.CJ-22-0217

Hana Mizutani, MD; Naoki Fujimoto, MD, PhD; Hiromasa Ito, MD; Toru Sato, MD, PhD; Keishi Moriwaki, MD, PhD; Akihiro Takasaki, MD, PhD; Yoshito Ogihara, MD, PhD; Shogo Kasuya, MD; Tatsuya Mori, MD; Muneyoshi Tanimura, MD, PhD; Itaru Goto, MD, PhD; Kazuhide Ichikawa, MD, PhD; Jun Masuda, MD, PhD; Toshiki Sawai, MD, PhD; Tairo Kurita, MD, PhD; Takashi Tanigawa, MD, PhD; Kaoru Dohi, MD, PhD